



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

3月号—No.346
2024.2.25
(毎月1回25日発行)

【雉鳩色(きじばといる)】少し紫がかった灰色。

キジバトは野生のハトのことで別名ヤマバト。体は色名の由来となった紫がかった灰色のグラデーションで、翼に黒と褐色のウロコのような模様があるのが特徴。雉鳩色は手縫いの絹糸の名前にも用いられているように、和服ではお馴染みの色だ。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和5年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式
令和4・5年度市町村立美術館活性化事業 報告

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ八戸セッション開催のお知らせ / 第24回地域伝統芸能まつりテレビ放送のお知らせ / 公共ホール求人情報 掲載申し込み方法 / 2023・2024年度公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)登録アーティスト公開プレゼンテーション開催のお知らせ / 令和5年度地域創造セミナー報告

今月の情報..... 6

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

青森県青森市 青森県立美術館「美術館堆肥化宣言」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

令和5年度 地域創造大賞 (総務大臣賞) 表彰式

令和4・5年度
市町村立美術館
活性化事業 報告

●令和5年度地域創造大賞(総務大臣賞)受賞施設

- 深川市文化交流ホールみ・らい[北海道深川市]
- 神奈川県立県民ホール神奈川芸術劇場(KAAT神奈川芸術劇場)[神奈川県]
- 京都館(ロームシアター京都)[京都市]
- 豊中市立文化芸術センター[大阪府豊中市]
- 和歌山県立近代美術館[和歌山県]

●地域創造大賞審査委員会

(※委員長、委員長代理以下、五十音順)

- 委員長
田村孝子[文化ジャーナリスト、前(公社)全国公立文化施設協会 副会長]
- 委員長代理
吉本光宏[(同)文化commons研究所 代表]
- 委員
河内隆[(一財)地域創造 理事長]
熊倉純子[東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科長 教授]
小林真理[東京大学大学院人文社会系研究科 教授]
坪池栄子[(株)文化科学研究所 編集プロデューサー]
仲道都代[ピアニスト]
柳沢秀行[(公財)大原美術館 学芸統括]

●地域創造大賞に関する問い合わせ

総務部 三田
Tel. 03-5573-4184

●令和5年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式



左:中井幹晴総務省大臣官房審議官による受賞施設への表彰状・楯の授与 / 右:受賞施設関係者、審査委員との記念撮影

令和5年度地域創造大賞(総務大臣賞)の表彰式が1月19日、グランドアーク半蔵門(東京都千代田区)で行われました。この賞は、地域創造設立10周年を記念して、地域における文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰する総務大臣賞として創設されたものです。これまでに138施設が表彰されました。

20回目となる今年度は5施設の受賞が決定し、中井幹晴総務省大臣官房審議官のご臨席の下、表彰式が行われました。主催者である地域創造の河内隆理事長の挨拶に続き、受賞施設の多彩な取り組みが映像で紹介されました。中井官房審議官から表彰状・楯の授与に続き、「受賞された皆様の活動は、活力ある地域社会の実現に大きく寄与するものであり、今後とも、全国のモデルとして、地域の暮らしをより心豊かなものにする文化・芸術の振興に、お力添えを賜りますようお願い申し上げます」と馬場成志総務副大臣の祝辞が披露されました。

“新たなハブ”として地域の魅力を発信したことが評価された豊中市立文化芸術センターの長内繁樹豊中市長より受賞施設を代表し、謝辞をいただきました。「開館から8年目を迎える現在、豊中市に本拠を構える日本センチュリー交響楽団や大阪音楽大学との協働事業をはじめ、子ども向けのアートイベントや、豊中市出身のアーティストとの企画など、多様なジャンルの鑑賞事業を実施しています。また、文化芸術にふれるきっかけづくりとなる事業も行うことで、市の文化芸術創造・発信の新たなハブと

して、アートと人をつなぐ役割を担っています。特に、人材育成事業『とよなかARTSワゴン』におきましては、市民アートコーディネーターと地域で活動するアーティストの両方を、同時に育成することで、市民による主体的な事業展開をサポートするなど、地域に根ざした文化芸術活動を推進しています。今後も“魅力と活力あふれるまち とよなか”の実現を目指し、取り組みを続けてまいります」と、今後への決意を込めた謝辞をいただきました。

大賞審査委員会の田村孝子委員長からは、受賞施設への講評とともに、「(今回の受賞は)設置者である自治体と、施設に関わる皆様が、コロナ禍にも関わらず、それぞれの施設の役割をきちんととらえ、ぶれずに運営していらした結果だと思います。(中略)大切と言われ、取り組みが盛んになってきましたが、残念ながら、日本でちょっと遅れているもの…未来を担う地域の子どものための“上質な事業”です。(中略)今回の受賞をきっかけに、皆様のご活躍でそれぞれの施設が子どもたちの宝、そして地域の宝となることを心から願っております」と今後への期待が寄せられました。

今回の賞は、受賞された施設のみならず、日頃からそれらの施設を支え、文化芸術による地域づくりに参加していただいている地域の皆様のご協力に対する感謝を込めて贈られるものです。心よりお祝い申し上げます。

●令和4・5年度市町村立美術館活性化事業 報告



「うるおうアジア」展示の様子。左：小金井市立はけの森美術館親子鑑賞&創作プログラム「カラフルにかざって宝箱を作ろう!」/右：はつかいち美術ギャラリー「夕暮れギャラリートーク&アジアの昔話の語り」

市町村立美術館活性化事業(以下、市美活)の巡回展「福岡アジア美術館蔵『うるおうアジア—近代アジアの芸術、その多様性—』」が、はつかいち美術ギャラリー、四日市市文化会館、上田市立美術館、小金井市立はけの森美術館にて開催されました。

所蔵作品の貸し出しや巡回展のアドバイザーとしてご協力をいただいた福岡アジア美術館は、アジアの23の国と地域の作品を網羅するユニークな所蔵作品を持つ美術館です。本展では、世界でも類を見ない同コレクションの中から、中国やインドなど15の国と地域の近代作品を中心にご紹介しました。また、本展の見どころは、絵画や彫刻といったいわゆる美術作品とともに、日常に密接した商業ポスターや輸出用絵画などの作品群、さらにはアートとしても注目されているバングラデシュのリキシャなど、ジャンルを横断しながら作品を展示した点です。開催館の学芸員の方々が約2年にわたって準備を進め、アジアにおける芸術のあり方、多様性や共通性について新たな眼差しが向けられるきっかけになることを期待し、このような巡回展開催に至りました。

各開催館では、展覧会のほかにワークショップ等の地域交流プログラムも実施しましたので、一部をご紹介します。

今回はアジアというテーマから、美術分野に限らず、音楽や食、歴史などさまざまな角度からのプログラムが実施されました。はつかいち美術ギャラリーでは、はつかいち市民図書館に

ご協力をいただき、展示室内で作品に囲まれながら昔話を聞く「夕暮れギャラリートーク&アジアの昔話の語り」を開催しました。展示室だけでなくホールも併設する四日市市文化会館で実施したのは、その特性を活かして三重県出身で楽器史家・ピアノ調律師の木村チェンバ郎さんによる、音楽コレクションを使った楽しいセミナーです。版画を中心とした収蔵作品をもつ上田市立美術館では、本展出品作品の中国やインドの手刷りのポスターをイメージして、多色刷りの版画を制作する講座を実施。小金井市立はけの森美術館では近隣にある亜細亜大学による多文化工作ワークショップで、切り絵体験やミニリキシャをつくりました。ほかにも各館で多彩なプログラムを複数実施し、作品の鑑賞をより深める機会となりました。

市美活は2カ年をかけて準備から開催までを行う事業で、地域創造の提示した企画案について、貸出協力館アドバイザーの助言のもとに開催各館の学芸員が、学芸会議で議論を重ねながら具体化していきます。広報や、図録の作成等、展覧会実施に係る業務についても、開催館同士で分担しながら進めていくことで、他館と連携しノウハウを共有することができ、単館ではなかなか取り組みづらいことにもチャレンジしやすい環境となっています。巡回展に参加したことのない学芸員のスキルアップとして活用いただける事業です。令和7・8年度市美活の参加館募集は、6月頃を予定していますので、ぜひご検討ください。



上：木村チェンバ郎さんによる特別セミナー「アジアの絵画から観た音楽と楽器」(四日市市文化会館)/下：「ウエダのアジア」を現代の版画技法で表現するワークショップ(上田市立美術館)

●令和4・5年度市町村立美術館活性化事業 第23回共同巡回展 福岡アジア美術館蔵「うるおうアジア—近代アジアの芸術、その多様性—」

[主催]第23回共同巡回展実行委員会、各開催館ほか
[特別協力]福岡アジア美術館

[会場・会期]

●はつかいち美術ギャラリー(広島県廿日市市)/2023年5月12日~6月25日

●四日市市文化会館(三重県四日市市)/7月8日~9月3日

●上田市立美術館(長野県上田市)/9月16日~11月19日

●小金井市立はけの森美術館(東京都小金井市)/12月2日~2024年1月28日

[助成](一財)地域創造

[アドバイザー]ラワンチャイクン寿子(福岡アジア美術館学芸員)、柏尾沙織(福岡アジア美術館資料管理)、兼原ふみ(福岡アジア美術館学芸員)

●公立美術館活性化事業に関する問い合わせ

総務部 三田・管藤

Tel. 03-5573-4184

財団からのお知らせ

●ステージラボ八戸セッション開催のお知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象として、事業の企画制作、施設運営、地域との関わりなど、ホール、劇場等のソフト面の運営に欠くことのできない要素を体得するため、ワークショップ等体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。令和6年度の前期セッションは、八戸ポータルミュージアムはっち・八戸市美術館にて2コースで開催します。

詳細や参加者募集は、次号(4月号)の地域創造レターおよび当財団ホームページでお知らせします。

◎ステージラボ八戸セッション概要

[日程]2024年7月2日(火)～5日(金)

[会場]八戸ポータルミュージアムはっち(八戸市

三日町11-1)

八戸市美術館(八戸市大字番町10-4)

◎開講コース(予定)

【ホール入門コース】

●対象となる職員の目安

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において業務経験年数1年半未満の方。

【自主事業コース】

●対象となる職員の目安

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

●第24回地域伝統芸能まつりがNHKで放送されます

3月3日(日)にNHKホールで開催の地域伝統芸能まつりがテレビ放送されます。今年度は「翔(しょう)」をテーマに、日本各地域の伝統芸能7演目と、古典芸能1演目が披露されます。ぜひご覧ください。

◎放送予定日

2024年3月30日(土) 15:30～17:00

NHK Eテレ「まつりの響き ～第24回地域伝統芸能まつり～」(NHKプラスで見逃し配信あり)

●公共ホール求人情報掲載 お申し込み方法

登録フォームにアクセスいただき、必要事項を直接ご入力ください。送信を行うには、フォーム最下部の投稿用認証キー欄へID、パスワードの入力が必要です。

※スパム対策のため、登録フォームURLおよびログインID、パスワードはホームページ上に記載していません。地域創造レターをご確認いただくか、地域創造までお問い合わせください。

- 1 求人情報登録フォームへアクセス。
- 2 登録フォームに沿って、必要事項を入力してください。
- 3 フォームの最下部にある投稿用認証キー欄にID、パスワードを入力。
- 4 登録を完了すると自動で登録完了のお知らせメールがお手元に届きます。
- 5 地域創造が内容を確認後、ホームページに情報を公開します。公開完了はメールでお知らせします。登録から情報公開までは2～3日程度お時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※情報を修正する場合には、「修正フォーム」へアクセスし、投稿用認証キー欄に登録時に使用したメールアドレス・ID・パスワードを、No.入力欄に公開完了のメールに記載した登録No.をご入力の上、「編集する」をクリックしてください。フォームから情報を修正し登録を完了すると、自動で登録完了のお知らせメールが届きます。新規登録時と同じく、情報公開までは2～3日程度お時間をいただく場合がありますのでご了承ください。

●ステージラボに関する問い合わせ

芸術環境部 藤原・田之頭

Tel. 03-5573-4183

●地域伝統芸能まつりに関する問い合わせ

総務部 高野

Tel. 03-5573-4056

●公共ホール求人情報に関する問い合わせ

芸術環境部 人材育成担当

jinzai@jafra.or.jp

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●2023・2024年度公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)登録アーティスト公開プレゼンテーション開催のお知らせ

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)は、全国の公共ホール等との共催により、地域の皆様との交流を図る地域交流プログラムと本格的で親しみやすいホールコンサートを共同でつくり上げる事業です。この度、昨年に引き続き2年目となる7組のアーティストによる公開プレゼンテーションを4月23日(火)にトッパン

ホール(東京都文京区)で開催します。このプレゼンテーションは、令和6年度のおんかつ実施団体を対象に行うものですが、今後おんかつの実施を検討されている公共ホール職員の方など、当事業に関心のある方もご覧いただけます。

アーティストが地域交流プログラムやコンサートにどのように臨むのかを知ることができ、絶好の機会です。ぜひご応募くださいませ。

●おんかつ公開プレゼンテーション概要

[日程]2024年4月23日(火) 15:00開演

[会場]トッパンホール

(東京都文京区水道1-3-3)

[出演]2023・2024年度登録アーティスト

- 今田篤(ピアノ)
- 水谷桃子(ピアノ)
- 上田純子(ソプラノ)
- 西村悟(テノール)
- 閑喜弦介(クラシック・ギター)
- カメハ(パーカッションデュオ)
- Modétro Saxophone Ensemble(サクソフォン四重奏)

[内容]各組25分程度のプレゼンテーション

[参加申し込み方法]

当財団のホームページの参加申込フォームよりお申し込みください

<https://www.jafra.or.jp/event-request/202402/>



[募集期間]2024年3月1日(金)～4月12日(金)

※定員に達し次第、申し込み終了

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 矢嶋・森永

Tel. 03-5573-4064

onkatsu@jafra.or.jp

●地域創造セミナーに関する問い合わせ

芸術環境部 管藤

Tel. 03-5573-4066

2023・2024年度 公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)登録アーティスト



いまだ あつし
今田 篤 [ピアノ]



みずたに ももこ
水谷 桃子 [ピアノ]



©FUKAYA Yoshinobu/auraY2
うえだ じゆんこ
上田 純子 [ソプラノ]



©T. Taira/data
にしむら さとし
西村 悟 [テノール]



かんき げんざい
閑喜 弦介 [クラシック・ギター]



©ayane shindo
カメハ [パーカッションデュオ]



©Keiju Takenaka
モデトロ・サクソフォン・アンサンブル
[サクソフォン四重奏]

●令和5年度地域創造セミナー報告

都道府県が主催する地方公共団体職員および公立文化施設職員等を対象とした研修会に対し、地域創造が講師を派遣する地域創造セミナー。令和5年度は福島県、高知県、愛知県、千葉県の4県で実施しました。今号では愛知県(12月15日)と千葉県(1月23日)の様相をご紹介します。

愛知県では、伝統芸能を専門に公演やワークショップなどの企画立案や制作・プロデュースを行う有限会社古典空間の小野木豊昭さんを講師に迎え、「次世代への『伝統芸能』体験機会の創出・充実」をテーマにご講義いただきました。伝統芸能を文化事業として取り上げる意味、伝統芸能の再定義と整理など、共通認識として必要な考え方、公共事業としての成果を見据えた企

画立案のプロセスなど60分の講演の後、参加した各自治体が取り組んでいる事業やその課題などを分かち合う「意見交換会」が行われました。セミナーには愛知県内の19市町の文化行政担当者等が参加し、今後の展開に向けて数多くのヒントを共有する時間となりました。

千葉県では、穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化プロデューサーの矢作勝義さんを講師に迎え、「自主文化事業について～企画・制作のために～」をテーマにご講義いただきました。穂の国とよはし芸術劇場PLATのミッション・ビジョンを前提に、PLATの自主事業の事例を交えながら、企画立案のヒントを示していただきました。文化政策の変容を理解し、これからの劇場・音楽堂が地

域社会に果たす役割について考える時間となりました。

当事業では主催する都道府県の課題や今後取り組みたい施策などを基にセミナーを行っています。次年度は4県での開催を予定しています。



矢作勝義さんの講義(千葉県)

地域通信

●掲載情報について

最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 林・管藤

●2024年5月号情報締切

2024年3月22日(金)

●2024年5月号掲載対象情報

2024年5月～7月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●北海道函館市

北海道立函館美術館

〒040-0001 函館市五稜郭町37-6

Tel. 0138-56-6311 田村允英

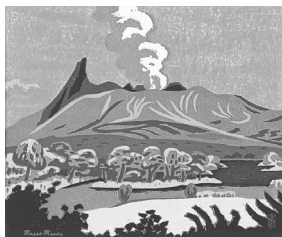
<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/hbj>

生誕120年 前田政雄展

函館出身で日本近代を代表する版画家として活躍した前田政雄(1904～74)は、題材のほとんどを風景に求め、日本的な美を追求した。2024年に生誕120年を迎えるにあたり、初期から晩年までの版画・油彩だけでなく、戦前の版画誌や版画技法書、道内画壇との交流を示す色紙や写真、挿絵・装丁を手がけた書籍など約200点を前後期に分けて紹介。木版画とともに歩んだ前田の版画家人生を改めて振り返る。

[日程]前期:2023年12月23日～2月18日/後期:2月22日～4月14日

[会場]北海道立函館美術館



前田政雄《駒ヶ岳》(1959年/北海道立函館美術館蔵)

●岩手県宮古市

宮古市民文化会館

〒027-0023 宮古市磯鶏沖2-22

Tel. 0193-63-2511

<https://iwate-arts-miyako.jp/>

読むべす 聞くべす「みやこのこえ」

宮古市民文化会館を拠点に三陸地域や岩手の生活・文化・風土にふれながら、新たな作品制作やリサーチ、地域との交流などを行うアーティストの制作支援

を目的としたアーティスト・イン・レジデンス事業のひとつ。本公演は劇作家・私道かびが宮古市に滞在し、小学生から90歳代の市民から聞いた一つひとつのエピソードを1人語りの脚本に仕立て、「読みあうつどい」「聞きあうつどい」として開催する。

[日程・会場]3月16日:イーストピアみやこ/17日:宮古市民文化会館

●山形県東根市

まなびあテラス

〒999-3730 東根市中央南1-7-3

Tel. 0237-53-0223 久保里美

<https://www.manabiaterace.jp/>

ながさわたかひろ展

「顔、顔、顔」

東根市出身の美術家・ながさわたかひろのまなびあテラスでは2度目となる個展。前半はコロナ禍の記録として、その日のトピックから選んだ著名人の似顔絵を毎日1人ずつ描いた全1,000点が壁一面に並ぶ〈ウィズコロナの肖像〉。後半はモデル本人がコメントを書き入れた平面作品約35点と、モデルゆかりの事物をセットで展示する〈愛の肖像画〉シリーズ。本展のために事前公募した東根市民モデル3人を描いた新作も披露される。

[日程]2月3日～3月3日

[会場]まなびあテラス 東根市美術館



ながさわたかひろ《ウィズコロナの肖像》(ガッシュ/各14×14cm)
写真提供:川崎市岡本太郎美術館

●福島県会津若松市

会津若松文化振興財団

〒965-0807 会津若松市城東町12-1

Tel. 0242-27-0900 山宮勇

<https://aizu-bunka.jp/>

住民参加型タップダンス公演 第7弾 TAP ―Be the light―

2016年度から実施している、参加者を公募しプロのタップダンサーの指導で稽古を重ねた成果を発表する公演の第7弾。会津地域を中心に県内各地から公募で集まったTAP blanc Aizuの9人が5月からの稽古の成果を発表する。振付・演出の中山貴史が参加者の個性を生かして指導し、プロのタップダンサーやミュージシャンとセッションするステージもまとめ上げる。

[日程]3月10日

[会場]会津若松市文化センター

●福島県いわき市

いわき芸術文化交流館アリオス
〒970-8026 いわき市平字三崎1-6

Tel. 0246-22-8111 萩原宏紀

<https://iwaki-alios.jp/>

リージョナル・シアター2023 いわきアリオス演劇部U30 「オムニバス・ストーリーズ・プロジェクト(マッピング版)」

30歳以下の若者たちとプロの劇作家・演出家が演劇を創作する「いわきアリオス演劇部U30」。今年度は、「theater apartment complex libido:」の岩澤哲野が顧問を務め、いわき市内外から集まったキャスト18名、スタッフ7名の演劇部員が参加。「ロロ」の三浦直之が書き下ろした短いテキストと登場人物のプロフィールを基に、いわきオリジナル作品を創作する。

[日程]3月16日、17日

[会場]いわき芸術文化交流館アリオス

●福島県白河市

白河文化交流館コミネス

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

〒961-0075 白河市会津町1-17
Tel. 0248-23-5300 佐々木郁哉
<http://cominess.jp/>

第9回ハイスクール劇王～高校生短編演劇競技大会～

日本劇作家協会東海支部発祥の短編演劇大会「劇王」の高校生版。高校生による主体的な創作活動の発展のため、劇作・演出・役者・舞台技術すべてを高校生が担うというルールで2014年から開催している。上演時間20分以内のオリジナル作品、出演者5名以内などの縛りがある中で作品を創作・上演し、審査員と観客の投票で優勝したチームがその年の「劇王」となる。優勝チームには市の工芸品「優勝だるま」が贈呈される。

[日程] 3月31日

[会場] 白河文化交流館コミネス

関東

●茨城県笠間市

茨城県陶芸美術館
〒309-1611 笠間市笠間2345 (笠間芸術の森公園内)
Tel. 0296-70-0011 名村実和子
<https://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

企画展「ガラスアート・ライジング 藤田喬平、リトルトン、リベンスキーと世界の作家」

1960年代以降、ガラスの作品制作は大きく変化し、世界各国の作家によって多様な表現が生み出された。本展ではガラスの造形表現の黎明期とも言えるこの時代を牽引した、世界と日本の作家23名の作品を公開。毎週土曜日を「話そう・聞こうの日」と題し、会話を楽しみながらの鑑賞が可能なことに加え、関連事業としてガラスのワークショップや読み聞かせの会も実施され、家族や友人とも楽しむことができる。

[日程] 1月2日～4月7日

[会場] 茨城県陶芸美術館

●群馬県太田市

太田市文化スポーツ振興財団
〒373-0026 太田市東本町16-30
Tel. 0276-55-3036 山田晃子
<https://www.artmuseumlibraryota.jp/>

本と美術の展覧会 vol.5

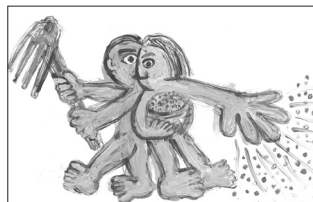
あふれる、うごめく、のめりこむ。

— 絵本原画とアートの空間 —

2017年から開催してきた「本と美術の展覧会」。今回は絵本と、その枠に収まらない創作を展開している田島征三、ミロコマチコ、館野鴻の3人による展覧会を開催する。田島、ミロコによる立体作品、館野の緻密なデッサンやメモで、「絵本」からはみ出した作品表現の多様さを伝えるとともに、3人の近作の原画を多数出品し、作家たちの「今」にふれることができる。

[日程] 2月23日～5月26日

[会場] 太田市美術館・図書館



田島征三「た」原画(2022年)

●群馬県館林市

群馬県立館林美術館
〒374-0076 館林市日向町2003
Tel. 0276-72-8188 野澤広紀
<https://gmat.pref.gunma.jp/>

ヒューマンビーイング 藤野天光、北村西望から三輪途道のさわれる彫刻まで

美術表現の基本と言える人物像に焦点を当て、近代から現代にかけての作家たちが人の姿に託して表現しようとしたものを探る展覧会。2つの特集展示として、館林生まれの彫刻家・藤野天光の生誕120年を記念し、師の北村西望の作品とともに特集するほか、群馬県下仁田町出身

で、自らの生活に根ざして人間を見つめる全盲の彫刻家・三輪途道の作品を手で触れて鑑賞できる展示も行う。

[日程] 1月27日～4月7日

[会場] 群馬県立館林美術館



三輪途道《泥団子少女》(2021年/作家蔵)
Photo: Ryoichi Suzuki

●埼玉県所沢市

所沢市文化振興事業団
〒359-0042 所沢市並木1-9-1
Tel. 04-2998-6500 岩田佳代子
<https://www.muse-tokorozawa.or.jp/>

ミューズホールオルガニスト三原麻里Presents 光と陰のハーモニー ～印象派の扉を拓く～

3月末で退任となるミューズ第4代ホールオルガニスト・三原麻里のラストリサイタルでもある本公演は、ピアニスト・萩原麻未を共演者に迎え、フランス印象派の作曲家、作品を中心にお届けする。日本有数の規模を誇るパイプオルガンによる三原の感性豊かな表現力と、萩原の繊細な描写が紡ぐハーモニーで、午後のひとときを色彩豊かな音楽で彩る。

[日程] 3月24日

[会場] 所沢市民文化センターミューズ アークホール

●千葉県浦安市

浦安市市民プラザWave101
〒279-0012 浦安市入船1-4-1 イオン新浦安SC4F
Tel. 047-350-3101 大塚
<https://www.urayasu-zaidan.or.jp/wave101/>

第1回「夢をかなえる演劇公演」『チョイストーリー-3/3～ひな人形たちの選挙戦～』

浦安で演劇の楽しさ、参加する面白さを広めたい、劇団をつくりたいといった夢を叶える市民参加型事業。これまでに市内でのワークショップや体験会を経て、現在市民公募による12人が本番公演に向け稽古を重ねている。演出に劇団ジンバブエの山中まこを迎え、ジンバブエの劇団員と共に実施する第1回記念公演は、「イス取りゲーム」をテーマにしたストーリーをお届けする。

[日程] 3月3日

[会場] 浦安市民プラザWave101

●東京都江東区

東京都現代美術館
〒135-0022 江東区三好4-1-1 (木場公園内)
Tel. 03-5245-4111 鎮西芳美
<https://www.mot-art-museum.jp/>

豊嶋康子

発生法—天地左右の裏表

私たちを取り巻くさまざまな制度や価値観、約束事に対して「私」の視点から独自の仕方でも対峙し続けてきた豊嶋康子(1967～)。本展では、30年にわたる制作から約500点を展示。作家自身の構想に基づき、個々の作品が持つ構造に応じて緩やかにグループ化された作品同士の関係性を見ることができる。作品を通して作者の思考にふれ、私たちの思考や行為を改めてとらえ直す契機を与えてくれる。

[日程] 2023年12月9日～3月10日

[会場] 東京都現代美術館

●東京都世田谷区

世田谷美術館
〒157-0075 世田谷区砧公園1-2
Tel. 03-3415-6011 池尻豪介
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

美術家たちの沿線物語 小田急線篇

2020年度にスタートしたシリー

ズ企画の完結篇。世田谷の中央部を大きく東西に横切り、在任作家数も最も多い地域とされる小田急沿線を取り上げる。演劇の街・下北沢や、小田原線開業に先立ち開発され、まもなく100年の歴史を迎える成城など、小田急線とその沿線ゆかりの美術家たちを通して、「世田谷の美術」を新たな視点で紐解く。「京王線・井の頭線篇」も同時開催。
[日程] 2月17日～4月7日
[会場] 世田谷美術館

●東京都立川市

立川市地域文化振興財団
〒190-0022 立川市錦町3-3-20
Tel. 042-526-1312 岡崎未侖
<https://www.tachikawa-chiikibunka.or.jp/>

立川市民オペラ2024 ドニゼッティ作曲 歌劇『愛の妙薬』

今年で32年目と長い歴史を誇る市民オペラ公演。今回はドニゼッティ作曲の歌劇『愛の妙薬』全2幕を字幕付き原語で上演する。立川市民オペラ合唱団、立川管弦楽団に加え、助演も公募で集まった市民が出演する。プレイベントとして、演技ワークショップやイタリア人指揮者を迎えた合唱特別練習、小中高生を対象のゲネプロ見学会を行うほか、駅や市役所など5カ所を過去公演の舞台写真展が巡回開催される。
[日程] 3月23日、24日
[会場] たましんRISURUホール(立川市市民会館)大ホール

●神奈川県大和市

やまと芸術文化ホール
〒242-0016 大和市大和南1-8-1
Tel. 046-259-7591 清水
<https://yamato-bunka.jp/hall/>

リーディングイマジネーション「カミサマノ本棚」

俳優の中嶋朋子がプロデュースするシリウスオリジナルの朗読

劇。芥川龍之介や宮澤賢治など数々の名作とチェロの音色がコラボし、「朗読」×「芝居」×「音楽」のジャンルミックスによるドラマティックな世界を体現しながら時間を紡ぐ新たな企画。プレイベントとして、テーマに沿った言葉を参加者から集め、1つの小さな物語にする参加型の「ワタシノ本棚」も開催する。

[日程] 3月23日
[会場] やまと芸術文化ホール

北陸・中部

●新潟県見附市

見附市文化ホールアルカディア
〒954-0059 見附市昭和町2-1-1
Tel. 0258-63-5321 渡部桂子
<https://www2.city.mitsuke.niigata.jp/arcadia/>

家族で楽しむ音楽会～音楽と絵本のコンサート～

0歳から入場可能で、子どもが泣いてもはしゃいでも大丈夫なコンサート。公演では、お馴染みの名作絵本『ぐりとぐらのおおそうじ』を音楽と一緒に朗読するほか、どんな年代でも楽しめる本格的な歌や曲を披露、家族みんなで楽しむことができる。楽器の演奏は、ホールのレジデンス楽団であるアルカディアフレンズアンサンブルが担い、コンサートマナーをレクチャーするコーナーも実施。未来の観客も育てていく。

[日程] 3月3日
[会場] 見附市文化ホールアルカディア

●富山県黒部市

黒部市美術館
〒938-0041 黒部市堀切1035(黒部市総合公園内)
Tel. 0765-52-5011 樋口真理子
<https://kurobe-city-art-museum.jp/>

海と生きる、記憶をたどる物語
宮城県気仙沼市のリアス・アー

ク美術館が東日本大震災の発生直後から約2年間にわたって行ってきた震災被害記録と調査活動で収集された写真と被災物を、日本海側の地域で初めて公開する。また「わたしたちの場所から」と題し、黒部市民を中心に応募された作品を併せて展示。古くから漁業を生業とし、海とともに生きてきた町、気仙沼と黒部が、時間と場所を越え、大切な記憶をたどる機会となる展覧会。

[日程] 1月13日～3月17日
[会場] 黒部市美術館

●福井県大野市

COCONOアートプレイス
〒912-0081 大野市元町12-2
Tel. 0779-64-4848 伊藤富美
<https://www.cocono-art.jp/>

木村家の“絵”便利展～セツ、幸子、いこが描く三世代アート～

夫に先立たれ、塞ぎ込んでいた母を心配した娘から勧められて90歳から新聞ちぎり絵を始めた奈良在住の木村セツ。SNSで作品を発信すると反響を呼び、個展の開催や絵日記も出版されるなど、95歳となる現在も創作を続けている。本展ではこれまで制作してきた作品のほか、ちぎり絵を始めるきっかけとなったグラフィックデザイナーの娘とイラストレーターの孫、家族三世代にわたる素敵な関係性が垣間見られる作品も展示。期間中はオリジナル絵手紙づくりなど2つのワークショップを開催予定。
[日程] 1月20日～3月20日
[会場] COCONOアートプレイス

●岐阜県岐阜市

岐阜県美術館
〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22
Tel. 058-271-1313 後藤正行
<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/>

アートまるケット「展覧会を準備してます。展。」

岐阜の言葉で「…まみれ」を意味する「…まるけ」と、市場を意味する「マーケット」にかけた造語「アートまるケット」は、岐阜を「アートまみれ」にしようとする日比野克彦館長のディレクションによるシリーズ企画。今回は、観覧では知ることのできない虫菌害対策で行う燻蒸作業や、作品の額装作業や修復作業など、美術館の舞台裏を紹介する。また今秋開催予定の同館が誇るルドンコレクション展覧会の準備風景の展示では、世界とつながる様子も観ることができる。
[日程] 1月13日～3月17日
[会場] 岐阜県美術館

●静岡県

静岡県立美術館
〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

Tel. 054-263-5755 植松篤
<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/>

天地耕作 初源への道行き

旧引佐郡(現浜松市)細江町出身の村上誠、渡兄弟と、同郡引佐町出身の山本裕司によって1988年から2003年にかけて行われた美術制作プロジェクト「天地耕作(あまつちこうさく)」。まちなかを離れた野外を活動拠点に、木や縄、石や土など自然物を素材とした大掛かりな作品を制作した。本展では天地耕作の活動の全貌を、写真作品や映像、貴重な資料で明らかにするとともに、未完となっていた2003年の野外作品を美術館の裏山にて完成させる。
[日程] 2月10日～3月27日
[会場] 静岡県立美術館

●名古屋市

愛知県美術館
〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
Tel. 052-971-5511
<https://www-art.aac.pref.aichi.jp/>

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

コレクションズ・ラリー 愛知県美術館・愛知県陶磁美術館 共同企画

愛知県美術館と愛知県陶磁美術館の大規模な共同企画が陶磁美術館の休館に伴い実現した展覧会。2館合わせて合計17,000件以上に上るコレクションの中から約150点を、両館の4人の学芸員がそれぞれ独自の視点でテーマを立ててオムニバス形式で紹介する。これまで交わることのなかったコレクションが会うことで生まれる作品同士の共鳴も見どころ。

[日程] 1月16日～4月14日

[会場] 愛知県美術館

近畿

●滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
〒520-0806 大津市打出浜15-1
Tel. 077-523-7133 有田淳
<https://www.biwako-hall.or.jp/>

びわ湖ホール プロデュースオペラ R.シュトラウス 作曲『ばらの騎士』

2023年4月に芸術監督に就任した指揮者・阪哲朗が初めて手掛けるプロデュースオペラ。ウィーンゆかりの作品を制作してきた今年度の締めくくりとして『ばらの騎士』を日本語字幕付き、ドイツ語で上演する。国内外で活躍する歌手を中心に、びわ湖ホール声楽アンサンブル、大津児童合唱団、京都市交響楽団が出演・演奏する。チケットはU30席の設定や当日券に青少年割引を設けるなど、若年層の来場者を取り込む工夫をしている。

[日程] 3月2日、3日

[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●京都市

京都市京セラ美術館
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町124

Tel. 075-771-4334 高橋信也
<https://kyotocity-kyocera.museum/>
京都市美術館開館90周年記念展「村上隆 もののけ 京都」

国内で約8年ぶり、東京以外で初めて行われる村上隆の大規模個展。大学で日本画を専攻した村上が、江戸時代に京都を中心に活躍した絵師たちの代表作を独自に解釈・引用し、再構築した新作、国内初公開作品など大多数が新作となる約170点で構成。京都の伝統文化や、京都を主題とする日本美術の作品などから着想して描き下ろした作品は、村上が案内する「古都」への入り口となっている。

[日程] 2月3日～9月1日

[会場] 京都市京セラ美術館

●大阪府豊中市

豊中市立文化芸術センター
〒561-0802 豊中市曾根東町3-7-2

Tel. 06-6864-3901 阪井
<https://www.toyonaka-hall.jp/>

こどもアートの日 2024

Let's Play!

オーケストラ、箏、落語などを楽しめる公演や、ダンス、伝統工芸などさまざまなことに挑戦できるワークショップが開催され、観るだけでなくアートで“あそぶ”ことを提案するプログラム。2018年にスタートした「こどもクラシックの日」を、21年からより複合的にアート体験ができるようにリニューアル。ジャンルにとらわれない体験イベントとしてパワーアップして開催している。

[日程] 3月23日

[会場] 豊中市立文化芸術センター

●兵庫県養父市

養父市・養父市教育委員会
〒667-0311 養父市大屋町大屋市場20-1
Tel. 079-669-0120
<https://www.city.yabu.hyogo.jp/soshiki/>

shiminseikatsu/oya/1_1/11235.html

ワークショップ&コンサート 「桃のおまつり」

春分の日をワークショップ&コンサートで楽しむ一日。平安時代の王朝遊びである「貝合わせ」のワークショップでは、一對のハマグリ貝の身と蓋の内側に思い思いの絵柄を描き、貝合わせ遊びを体験。コンサート「中国伝統楽器が奏でる春と花のしらべ」では、全国で活躍する二胡や琵琶などの中国楽器奏者が集結。この日だけのスペシャルチームによる演奏が楽しめる。

[日程] 3月20日

[会場] 養父市立おおやホール

●奈良県明日香村

奈良県立万葉文化館
〒634-0103 高市郡明日香村飛鳥10
Tel. 0744-54-1850 平出実乃里
<https://www.manyo.jp/>

館蔵品展「7人の万葉歌人からたどる万葉集」

『万葉集』に詠まれた歌をモチーフに描かれた万葉日本画や典籍などの展示により、万葉歌人の業績や生涯を紹介し、万葉歌が詠まれた時代をたどる展覧会。『万葉集』には100年以上の期間中に詠まれた歌が収められているため、本展では歌風検討のため区分された4つの時期の代表的な歌人である額田王・柿本人麻呂・山部赤人・山上憶良・大伴旅人・大伴坂上郎女・大伴家持の7人に焦点を当ててわかりやすく展示する。

[日程] 1月13日～3月3日

[会場] 奈良県立万葉文化館

中国・四国

●岡山市

岡山市市民会館
〒700-0823 岡山市北区丸の内2-1-1
Tel. 086-223-2165 湯浅

<http://www.okayama-shiminkaikan.jp/>

LAST SONG FOR 岡山市市民会館 ～ありがとうって歌う2DAYS～

2024年3月31日をもって60年の歴史に幕を下ろす岡山市市民会館。閉館記念事業として最後の有観客イベント「LAST SONG」を開催。会館に感謝を伝えようと地元アーティストが集まり、心に残る曲と音、魅惑のステージを2日間にわたって繰り広げる。午後8時の退場時間までホワイエの風景や展示品、2階のモザイクガラスなどを鑑賞できる最後の機会。コンサートでは来場者も参加し、みんなでラストソングを歌う。

[日程] 3月23日、24日

[会場] 岡山市市民会館



出演者の重光耕治。岡山で「たいこのおっちゃん」として親しまれる和太鼓奏者

●広島県福山市

ふくやま芸術文化ホール リーゼンローズ
〒720-0822 福山市松浜町2-1-10
Tel. 084-928-1800 菅野智範
<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/r-rose/>

第19回芸能大全

～まつりの世界～

県の無形民俗文化財に指定される備後府中荒神神楽をはじめ、民俗芸能が盛んな福山では、毎年、備後地域の芸能の発掘・継承を目的として、地元アマチュア団体とゲストを迎え、民俗芸能の市民参加型事業を開催している。第19弾となる今回は、千塚おどり保存会、備後府中荒神神楽保存会、備後しんいち踊り隊が出演し、ゲストに日吉神楽団

(安芸高田市)が登場する。
[日程] 3月3日
[会場] ふくやま芸術文化ホール
リーデンローズ

●山口県山口市

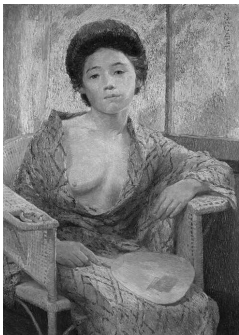
山口県立美術館
〒374-0076 山口市亀山町3-1
Tel. 083-925-7788 斎藤郁夫
<https://yma-web.jp/>

生誕150年 永地秀太展

山口県下松市出身で、太平洋画会の創立に深く関わり、文展や帝展で活躍した画家・永地秀太(1873~1942)の生誕150年を記念し、新たに修復を終えた作品と寄贈された作品を含めて紹介するコレクション展。初期の頃から晩年までの作品を展示し、変遷を追って比較することで、モチーフを見る画家の視点の変化や、それぞれの絵の見どころを体感できる。

[日程] 1月18日~3月31日

[会場] 山口県立美術館



永地秀太《しぼり》(1913年/山口県立美術館蔵)

●山口県下関市

下関市立美術館
〒752-0986 下関市長府黒門東町1-1
Tel. 083-245-4131 関根
<https://www.city.shimonoseki.lg.jp/site/art/>

開館40周年記念特別展「狩野芳崖、継がれる想い 悲母観音からはじまる物語」

近代日本美術の胎動期に活躍

した下関市ゆかりの日本画家・狩野芳崖(1828~88)が、最期に手掛けた作品《悲母観音》。本展では、この作品から始まる物語を紡いでいくほか、もうひとつの代表作《仁王捉鬼図》や晩年の仏教画題作品とともに、芳崖の模倣作、芳崖作品からインスピレーションを受けた作品も展示することで、改めて芳崖が近現代美術へ与えた影響について考える。

[日程] 2月6日~3月17日

[会場] 下関市立美術館

●愛媛県松山市

愛媛県美術館
〒790-0007 松山市堀之内
Tel. 089-932-0010
<https://www.ehime-art.jp/>

わたしのうみ ART/LIFE

日本初の国立公園のひとつとして指定され、3月16日に指定90周年を迎える瀬戸内海。大小の島々が点在し、「多島美」と呼ばれる風景や豊かな資源は、美術に限らず暮らしにも大きな影響を与えてきた。本展ではその歴史を物語る絵画作品をはじめ、身近な民藝や建築の仕事について紹介する。同時に、歴史文化博物館や総合科学博物館でも瀬戸内海に関する展示を開催し、多角的な理解を深める。

[日程] 2月7日~3月24日

[会場] 愛媛県美術館

九州・沖縄

●福岡県筑後市

筑後市文化振興公社
〒833-0047 筑後市大字若菜1104
Tel. 0942-54-1200 久保田力
<https://www.sathankusu-chikugo.or.jp/>

こどものえんげきひろば25周年記念公演第3弾「さかさま」

演劇的な活動を通して、日常における表現力やコミュニケーション

ン能力を養うことを目的に、開館当初から実施している「こどものえんげきひろば」。開講25周年記念公演として、2020年にコロナ禍で公演中止となった本作に改めて挑戦する。小学2年~高校1年生の受講生24人が出演し、公演当日には作品の原作者のTeruko(奥田輝子)を招いてのアフタートークも開催する。

[日程] 3月24日

[会場] サザンクス筑後

●長崎県諫早市

諫早市美術・歴史館
〒854-0014 諫早市東小路町2-33
Tel. 0957-24-6611 坪内・森・田中
<https://www.city.isahaya.nagasaki.jp/site/bireki/19698.html>

野口彌太郎展

戦後の日本洋画壇で活躍したフォービズムの洋画家・野口彌太郎(1899~1976)。幼少の一時期を父の郷里である諫早で過ごし、戦後も毎年のように諫早や長崎を訪れ多くの作品を残した。ゆかりの画家として、市民団体による「ミモザ忌」や当館でも毎年作品を展示し、顕彰活動を実施している。今回は開館10周年を記念して規模を拡大し、館所蔵の全作品に加え、個人所蔵作品と併せて92点の作品を展示する。

[日程] 2月17日~3月24日

[会場] 諫早市美術・歴史館

●宮崎県都城市

宮崎県立芸術劇場
〒880-8557 宮崎市船塚3-210
Tel. 0985-28-3208 青柳竜郎
<https://miyazaki-ac.jp/>

宮崎県立芸術劇場×都城市総合文化ホールMJ共同企画

「あつまっど! みやこんじょ あたいどんが祭り」

宮崎県立芸術劇場と都城市総合文化ホールMJが共同で企画

した民俗芸能に焦点を当てたプログラム。公募で集まった幅広い年代のリサーチメンバーとアーティスト(白神ももこ、西井夕紀子、長峰麻貴)が、都城に数多く残る民俗芸能を7月からリサーチ。みんなで唄って踊って楽しみながら、改めて都城に伝わる民俗芸能についても考える“超参加型”の新たなスタイルのお祭りをつくり上げる。

[日程] 3月24日

[会場] 都城市総合文化ホールMJ



リサーチの様子

講座・シンポジウム

長久手市文化の家開館25周年記念シンポジウム「舞台芸術を未来へつなぐアーカイブ」

音楽や演劇、ダンスなどの舞台芸術は、上演されるその場限りでしか存在できないものであり、残された周辺の資料のみが上演の証拠となる。しかし、特に都市部以外において、各地での上演資料を誰がどのように保存し、どう活用していけるのか。このことについては、これまで十分に議論されていなかった。本シンポジウムでは、「地域の文化施設からひろがる舞台芸術の可能性」をテーマに、各地の実践者や研究者を招き、地域の文化施設はどのように舞台芸術アーカイブへの取り組みができるのかを検討する。

[日程] 3月24日

[参加費] 無料(事前申込制)

[会場・問い合わせ]

長久手市文化の家

Tel. 0561-61-3411

<https://bunkanoie.jp/>

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●栃木県栃木市

栃木市立美術館

〒328-0016 栃木市入舟町7-26

Tel. 0282-25-5300

<https://www.city.tochigi.lg.jp/site/museum-tcam/>

◎2022年11月3日オープン



前身となる美術館は、“蔵の街”と呼ばれる栃木市の歴史的景観を象徴する土蔵を改装して活用していたが、温湿度管理が難しいことや展示スペースが狭いこと、また中心市街地の活性化や文化・芸術および地域交流・観光交流の拠点施設として新たな美術館が求められていたことから、旧市役所跡地に整備。蔵をモチーフにした建物は展示室3室と多目的室を備え、隣接する栃木市立文学館と美術館を繋ぐひろばは、関連イベントの開催などにより、人々の憩いの場となっている。

喜多川歌麿をはじめ、明治以降に活躍した清水登之、田中一村らの絵画や二代飯塚鳳齋らの竹工芸など、市ゆかりの作家たちの作品を収蔵するとともに、国内外の優れた作家を紹介する。

「ふるさと・ひと・ときを結び、未来をつくるミュージアム」をコンセプトとして、市民のふるさとへの愛着と誇りの醸成やにぎわい創出に寄与することを目指す。

[オープニング事業]開館記念展「明日につなぐ物語」

[施設概要]展示室A(289m²)・B(260m²)・C(121m²)、多目的室(75m²)ほか

[設置・管理・運営者]栃木市

[設計者](株)佐藤総合計画

●富山県氷見市

氷見芸術文化館

〒935-0021 氷見市幸町31-9

Tel. 0766-30-3430

<https://www.himi-bunka.or.jp/>

◎2022年10月8日オープン



耐震性能の不足から閉館した旧市民会館に替わる氷見市の新たな文化・芸術の拠点として整備。

優れた音響性を持つシューボックス型のホールには、エアキャスター方式の可動客席を設置。ブロックごとに移動でき、演奏会や展示会など多様な目的での利用が可能。ロビーや廊下など共用スペースにはカウンターやテーブルを設置し、読書や学習に自由に利用することができる。また、浸水被害対策として高さ5mのピロティ方式を採用し、ホールなど主要施設は2階に配置。雨天時などはピロティ下での催し物も可能。回廊に囲まれた芝生の青空広場は、日常的に市民に開かれ、大階段と一体的に利用したイベントも可能で、さまざまな発想で市民が活用できる次世代ホールを目指している。

[オープニング事業]こけら落とし公演「志の輔らくごブリリアント」、氷見市制施行70周年記念事業を兼ねたオープニングシリーズ(2022年10月～23年3月)

[施設概要]大ホール(800席)、マルチスペース(174m²)、交流室3室、スタジオ2室、交流工房、交流ラウンジほか

[設置者]氷見市

[管理・運営者](一財)氷見市文化振興財団

[設計・監理]古谷誠章+NASCA

●宮城県延岡市

野口遵記念館

〒882-0813 延岡市東本小路

119-1

Tel. 0982-31-3337

<https://www.nobeoka-noguchi.com/>

◎2022年12月18日オープン



旭化成株式会社の創業者で「のべおか新興の母」と呼ばれる野口遵を記念する施設として1955年に開館。100周年を迎えた同社からの寄附も受けリニューアルオープンした。

音楽や演劇を中心としたホールとして、また延岡城跡など歴史・文化ゾーンの象徴的施設として整備されたホールは三層バルコニー形式で、壁面に設置された木ルーバーは、延岡の伝統的風景である「鮎やな」をモチーフとしており、優れた音響特性と同時、木の素材感が温もりのある優しい印象をつくり上げている。1階に設けられた野口遵顕彰ギャラリーは、野口の紹介や延岡が工業都市として発展していく姿などを、デジタルコンテンツを用いてわかりやすく展示。また多目的に利用できるフリースペースは屋外スペースと一体的に利用でき、さまざまなジャンルのイベントが開催可能となっている。[施設概要]多目的ホール(675席)、野口遵顕彰ギャラリー、フリースペースA・B(154m²・78m²)、交流ラウンジ、屋上テラスほか

[設置者]延岡市

[管理・運営者](公財)のべおか文化事業団

[設計者]香山・小嶋・菊地・松下・コトブキ・オーツ特定建築設計共同体

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

青森県青森市

青森県立美術館

「美術館堆肥化宣言」



上: 蓑虫山人(陸奥全国神代石之図(部分))
下: Itazura NUMANの展示

● 美術館堆肥化宣言

美術館堆肥化計画の3年間の集大成となる総合成果展覧会。「計画」に関わったアーティスト、その過程で出会った土地の人々や過去の人物の活動資料、館のコレクション、ミミズなど、およそ21組が地域の文化を耕す「堆肥者」として参加・出品。

*本展では、アーティストも地域の文化の肥やし手もすべて堆肥者と呼称。

[会期] 2024年2月10日～6月23日

[主催・会場] 青森県立美術館

[堆肥者] An Art User Conference、「ありのままの表現展」に集まった作家たち、伊沢正名、Itazura NUMAN、小田香、偽石器、竹内正一、田附勝、テラヨンカーズ、外崎令子、庭田植え、畑井新喜司、弘前大学教育学部有志、三上剛太郎、蓑虫山人、ミミズ ほか県立美術館コレクション等

● 美術館堆肥化計画

地域とアーティストの営みの相互作用を促すアートプロジェクト。奥津軽(21年)、県南(22年)、下北半島(23年)と土地を変えて行われた地域での活動と、青森県立美術館でのその成果展示をセットで実施。地域における活動は、美術館のPR展示「旅するケンピ」とアーティストが地域で制作を行う「耕すケンピ」で構成。後者は、福祉作業所、郷土館、ショッピングセンター、史跡公園、展望台などで展開し、3年連続で参加した小田香やArt User Conferenceをはじめ、毎年3組の作家が制作を行った。

美術館の活動を、土壌を豊かにする“堆肥”になぞらえ、地域とアーティストの相互作用を促す枠組みとしてとらえる青森県立美術館のプロジェクト「美術館堆肥化計画」。その総合成果展「美術館堆肥化宣言」が2月10日にオープンした。初日に行われた担当学芸員の奥脇嵩大さんによるギャラリートツアーに参加し、展示会の模様を取材した。

市民10数人と共に、奈良美智の大規模個展で賑わう企画展示室の様子を横目に、広い常設展示エリアに移動。するとそこには、地域の現実や生活と連なるように制作されたアーティストの作品や、そこで出会った人々の多様な営みの記録が並んでいた。

展示は7つの「宣言」で構成。例えば宣言1「収集から共有へ」では、明治期に全国の古器珍物を展示する施設「六十六庵」を構想し、青森にも滞在した旅人・蓑虫山人が描いた博物画の掛軸が展示されていた。蓑虫は絵として記録すると、「必要な時にまた来る」と、作品も実物も地域に保存継承させたという。一転して宣言2「漏らしは肥やし」では、環境への問題意識から半世紀にわたり野糞を実践する糞土師の伊沢正名を取り上げ、糞の分解過程の記録写真を紹介する。このように前半は、収集や保存といった美術館の固定的な役割を問い、それを有機的に拡張するような展示が続いた。

そして中盤からは、宣言3「堆肥者はいたるところに」などと題して、市井の人々の営みや地域の暮らしと向き合ってきた作家の作品が続く。例えば、下北半島・佐井村の長福寺の副住職らによる「子どもの休日応援団体」の活動を象徴する巨大なミニ四駆コース。原子力施設の印象が強い六ヶ所村で住民の昼食と言葉を記録した田附勝の写真シリーズ。五所川原の社会福祉法人あーどが運営する「ありのままの表現展」に出品された多彩な作品群。通路を移動しながら寒立ち馬を感じる小田香の絵や映像作品……。いずれも青木淳が“原っぱ”をコンセプトに設計した美術館の広々とした空間や長い通路に巧みに配置されていた。

そして、最後を締めくくる宣言7「ここはリビング・インフラとしての美術館」には、縫いもの集団Itazura NUMANが下北地域で分けてもらった布で制作した物たちが溢れていた。みんなで作業できる机や横になれるベッド、作品入りの木箱に巻き付いた何匹もの巨大なミミズのぬいぐるみなどには、美術館を暮らしや労働を下支えする場にしようという、企画者のラディカルな問いかけが感じられた。

奥脇さんは、「青森県には青森県立美術館、十和田市現代美術館、弘前れんが倉庫美術館、国際芸術センター青森、八戸市美術館という5つの美術館がありますが、美術館の手が届かないエリアも多く抱えています。そのような地域と共にあるために美術館には何ができるかを考えながら、3年かけて奥津軽、県南、下北半島に出かけました。繋がりがあった社会福祉法人あーどから始めて、協働する“堆肥者”を探していきました」と話す。

地域に入り、そこにある営みを観察し、ヒントになる人や資料や声を探す。そんな手法は奥脇さんの出自である民俗学や考古学のフィールドワークにも重なる。具体的に声をかけたのは「美術館との関係を今後も生かしてくれそうな施設や人」と言い、事業を展開した風間浦村ではその資源を主体的に活用する試みが検討されているようだ。

一方、「一連の活動を通じて最も耕されたのは自分かもしれない」とも話す。「例えば通常は作品の保存管理を美術館が契約書で約束しますが、その内容を作家と分有、拡張できないかなど、保存や契約といった作品を扱う手続きを根本から点検し直したいと思うようになりました」。奥脇さんが地域で出会ったものに感応し、さまざまな刺激を得たことは、展示物の多彩さにも現れていた。この肥やしが再び美術館の中で熟したとき、そこには美術館と地域の新しい関係が生まれるかもしれない。堆肥化計画とその成果展は、美術関係者が専門性に閉じることなく、地域の現実にふれて、アウトプットし続けることの重要性と可能性を感じさせた。

(ライター・杉原環樹)